

ふくしおおさか

～ 出かける つなぐ 創る～



©TOMONORI TANIGUCHI 2018
この絵は、さまざまな“ちがひ”をもつ人びとが、互いに認めあえる共生社会をイメージしています。



教育 × 地域 × 施設 縦割を越えて

焦点

Fukushi Osaka Column

「観光」と「観風」という言葉があります。観光は国の光を観ることで、国の威光を観察し、見聞を増やし勉強することです。観風はその土地の風を感じることで、風土・風情を観ることです。観風は神社仏閣などを観ることで、観風は田舎や街を観て歩くことといえます。観風と観光の両方に優れたところは「風光明媚な地」と呼ばれます。

大阪は観光資源も少なくはないですが、今年は「観風」にチャレンジしてみたいと思います。取り立てて観るべきものがない地域でも、十分その町の風情を楽しむことができます。風を感じて目的もなくぶらぶら歩く。神社仏閣・史跡、大阪の景観、街並み、街道や生産物・生産施設など。皆様と一緒に何かを探しましょう。それが地域の活性化につながれば、いいね！

(寿)

教育×地域×施設 縦割りを越えた協働

～たじりっこ安全フェスタ～

近年、人口減少や少子高齢化がすすみ、地域のつながりが希薄化する中で、分野や種別を越えた連携の取り組みが重要となっています。

今回は、地域教育協議会(㊦)と社会福祉施設、地区福祉委員会、社会福祉協議会が連携して行う取り組みについて取材しました。同じ地域をフィールドにしているさまざまな分野の団体が連携していく秘訣を伺います。

たじりっこ安全フェスタとは
令和8年2月に田尻町立小学校で行われた「たじりっこ安全フェスタ」には、田尻町内に住む小中学生、園児とその保護者たちが参加しました。



体験はすべて同じ場所で、実際の街中をイメージして実施。高齢者疑似体験や車いす体験をしている子どものすぐそばを、自転車安全講習の自転車が通り抜けます

教育協議会(㊦)「たじりっこ安全フェスタ」(以下、try・あぐる)が中核となり、町内の特別養護老人ホーム、フィオーレ南海・田尻町地区福祉委員会・田尻町社協が協力して実現。令和7年度からはじまった「市区町村域しあわせネットワーク体制整備助成事業」を活用して実施されました。

フェスタでは泉佐野警察による交通安全の講話の後、自転車安全講習と高齢者疑似体験、車いす体験を行いました。体験した子どもからは「普段自転車でスピードを出してしまうけれど、車いすの人は避けたくても避けられないこともあるんだと分かった」という感想が聞かれ、互いの立場を想像する機会となりました。

その後の縁日遊びでは、地区福祉委員会やtry・あぐるのメンバー、フィオーレ南海の職員がスパーボールすくいやヨーヨーつりなどを通して子どもたちと交流しました。

「子どもたちは自分の祖父祖母くらいしか高齢者を知らないことも多い。疑似体験だけでなく、こういった地域行事を通して、地域にはいろんなおっちゃん・おばちゃんがいることを知ってほしい」と地区福祉委員は話します。

福祉的な学びと楽しい交流が融合した、多世代が笑顔で集う一日となりました。

「try・あぐる」の名前は、学校・地域・家庭を結ぶ「トライアングル」と、挑戦の「try」がかかっています。町内の地区福祉委員会や保護司会、PTAなど多様な団体が参画しています。

以前は教育分野と福祉分野の活動が縦割りになっていました。

協働の秘訣

「try・あぐる」の名前は、学校・地域・家庭を結ぶ「トライアングル」と、挑戦の「try」がかかっています。町内の地区福祉委員会や保護司会、PTAなど多様な団体が参画しています。

以前は教育分野と福祉分野の活動が縦割りになっていました。

地域教育協議会(すやかネット)

「地域の子どもは地域で育てよう」という理念のもと、学校や地域団体が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えるためのネットワーク組織です。中学校区ごとに学校と地域の交流イベントや登下校の見守りなどに取り組んでいます。

各団体のメンバーから、協働を通しての思いや大切にしているポイントを伺いました

縦割りを越え、大人が楽しむ姿から「顔の見える関係」をつくる

try・あぐるには多様な団体が参画しています。

相互に顔が見える今の関係があるからこそ、イベントの際にお互い声をかけあって協力できています。コーディネーターとして意識しているのは、子どもたちに「いつものおっちゃんや」と顔を覚えてもらうこと。これが地域での見守りにもつながると考えています。

田尻中学校区地域教育協議会(たじりtry・あぐる)

会長 堀江 正也さん
地域コーディネーター
明貝 一平さん



施設は、単にケアを提供する場所ではなく、コミュニティの一員

行事の手伝いや地域と関わるボランティア活動は、利用者にとって大切な社会参加の機会です。職員にとっても、地域とつながることで、専門性を発揮する機会や仕事のしやすさを実感できます。

また、顔が見える関係があれば、できること・できないことを正直に伝えあい、助けあえるとします。

社会福祉法人南海福祉事業会
特別養護老人ホーム
フィオーレ南海 施設長
阿形 純次さん

社協はあえて裏方に。同じ方向を向けるよう賛同者を増やしていく

少人数の社協だからこそ、多様な関係を巻き込み、協力体制を築くことが重要です。社協が中心となって目立つのではなく、いかに「賛同者を増やすか」を大切にしています。子どもが参加すれば、その向こう側にいる保護者にも福祉を知ってもらうきっかけになります。

同じ方向を向いて、無理のない範囲で、楽しみながら協力しあえる環境づくり。小さな町だからこそ「顔の見える関係」を武器にして、これからも地域を支えていきたいです。

田尻町社会福祉協議会
事務局長 越谷 賢二さん

協力することで大きな力に。現役世代に活動を知ってもらう機会

これまでは個別の団体だけで動く参加者が減ってしまう悩みもありましたが、今回のように協力することで大きなイベントができました。

私たち福祉委員会にとって、子どもたちの保護者である親世代に活動を知ってもらう機会は貴重です。ここでの交流が、将来のボランティアにつながってほしい。お互いに高齢者も子どもも尊重しあえるような、多世代が交流できる場をこれからも大切にしていきたいです。

田尻町地区福祉委員会
吉開 育子さん

「市区町村域しあわせネットワーク体制整備助成事業」(大阪しあわせネットワーク) ㊦

市区町村域での社協と施設の種別を超えたネットワークの強化を図ることを目的とし、地域の福祉力やセーフティネットの充実のために助成。本助成事業は、府内の社会福祉法人・施設による拠出金により運営されています。

